



主な内容

- 特集 1~2
東日本大震災から10年
あらためて今、防災を考える
- トピックス 3~4
●新型コロナウイルス
ワクチン接種についてのコールセンター
と相談窓口を開設しています
- 「東アジア文化都市北九州2020」
21交流式典」の観覧者を募集 など
- すこやかハート北九州 5
- 情報ステーション 6~11
*最終ページは人口データと若松区の情報

関連情報は
3ページへ

～新型コロナウイルス感染拡大防止のために～

- 「自分が感染しているかもしれない」という意識を常に持ちましょう。
- 飲酒を伴う懇親会など、感染リスクが高まる場面に気を付けましょう。

北九州市新型コロナ
ウイルス相談ナビダイヤル
☎0570・093・567
☎522・8775



特集 東日本大震災から10年
あらためて今、防災を考える

震災直後の
釜石市の
市街地

釜石市提供



▲行方不明者の捜索や避難所での健康管理、まちの復旧工事に伴う業務など復興支援活動を行う本市職員



現在の釜石市の市街地

釜石市提供

3月11日、東日本大震災から10年となりました。

本市では、被災地全域への早期の支援活動に加え、「鉄のまち」として歴史的なつながりのある岩手県釜石市役所に「北九州市・釜石市デスク」を設置し、今日に至るまで復興支援を続けています。

現在、釜石市をはじめとする被災地では、復興の総仕上げの段階に入っています。本市と釜石市は、平成25年(2013年)に連携協力協定を締結し、「鉄の絆」で結ばれた友好関係を大切にしながら、今後も未来志向の交流を重ねていく方針で一致しています。

震災から10年を経た今、本市の復興支援活動を振り返るとともに、日ごろからの災害への備えや防災意識の大切さについて、あらためて考えてみました。

事前の備えが大切！北九州市でも地震・津波が想定されます

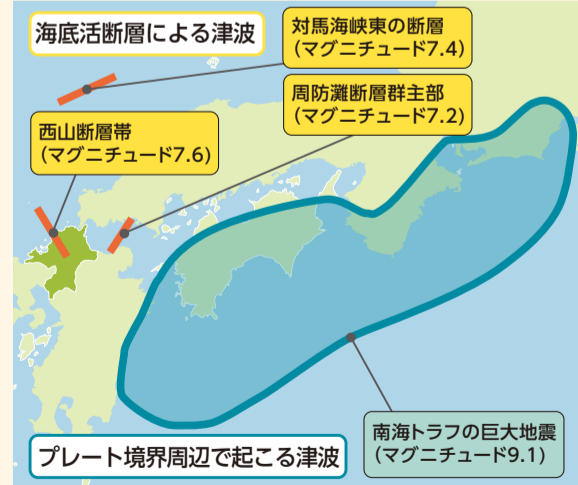
本市では、平成17年(2005年)の「福岡県西方沖地震」で震度5弱、平成28年(2016年)の「熊本地震」で震度4の揺れを観測しました。市内を通る活断層による地震が起こった場合、最大震度6弱(一部6強)の揺れが想定されています。

また福岡県は、福岡県沿岸に到達する最大クラスの津波による浸水想定区域を設定しています。本市に最大クラスの津波をもたらすと想定される津波断層モデルは、南海トラフの巨大地震、対馬海峡東の断層、西山断層帯、周防灘断層群主部が選定されています。本市では、この想定に基づいた「津波ハザードマップ」を作成していますので、市のホームページでご確認ください。



資料:福岡県地震に関するアセスメント調査報告書をもとに作成。頓田断層については、北九州市地域防災計画をもとに作成

■本市で想定されている津波



■想定される最高津波水位(標高)

	プレート境界周辺で起こる津波	海底活断層による津波		
		南海トラフ巨大地震(M9.1)	対馬海峡東の断層(M7.4)	西山断層帯(M7.6)
門司区	3.5m	-	-	3.2m
小倉北区	2.8m	2.4m	2.7m	2.4m
小倉南区	3.2m	-	-	2.5m
若松区	-	4.6m	3.0m	-
八幡東区	1.8m	1.9m	1.9m	-
八幡西区	1.6m	1.6m	1.8m	-
戸畑区	2.0m	2.0m	2.4m	-

■避難所の看板例



■道路標識等の表示例



避難場所や海拔の確認を

避難場所の看板や道路標識・照明灯の柱などに、海拔を表示しています。日ごろから確認しておきましょう。

詳しくは2ページで紹介します